夏こそ大掃除

「大掃除をするなら、寒い冬より夏が適しています」と漫画家で家事評論家の赤星たみこさんは強調する。その理由を「大抵の汚れは、温度が高い方が落ちやすいからです。冬の寒い時期に、つらい思いで水仕事をするより、ずっと効率的です」と説明する。赤星さんに、夏に汚れを落とす掃除テクニックを聞いた。

赤星たみこさんの技術

温度高いと汚れ落ちやすく

レンジフードの場合、取り外しができる金属フィルターには、油汚れがこびり付いている。「油汚れは温度が高いと溶けやすいので、熱湯を掛けてから、粉せっけんをお湯で5倍程度に溶いて作る〝とろとろせっけん〟を付けて、たわしでこすれば落ちます」ときっぱり。

レンジフードの内側の汚れがひどい時は、とろとろせっけんをスポンジで塗り付けてキッチンペーパーで覆ってパック。しばらくしたら、こすり洗いをして、雑巾で汚れを拭き取って仕上げる。

レンジ回りや壁の普段の掃除には、弱アルカリ性のセスキ炭酸ソーダ溶液を使う。この溶液は、水500ミリリットルに、セスキ炭酸ソーダの粉末小さじ2分の1を入れて作る。週1～2回程度、スプレーして、拭いておけば、汚れは落ちるそうだ。

次は浴室。「浴室のタイルの目地が黒く変色しているのはカビが原因です」と赤星さん。過炭酸塩大さじ2～3に水を少量加えて作ったペーストを、歯ブラシで塗り付け、乾かないようにラップを貼り付けて、一晩置いておく。翌日、ラップを外し、歯ブラシでこすり洗いして、水で流して終了だ。

「過炭酸塩は約50度で一番、働くので、夏の方が効率がいいんです。手が荒れないようにゴム手袋をしておくといいでしょう」と助言する。

鏡の水あかはどうすればいいのだろうか。「水あかはアルカリ性なので、酸性のクエン酸を使うと中和して落ちやすくなります」。大さじ1杯のクエン酸粉末を水200ミリリットルに溶かしてクエン酸溶液を作り、スプレーに入れて鏡全体に吹き掛ける。その上をキッチンペーパーで覆い、さらにラップをかぶせ、一晩置いておく。

「翌日ペーパーとラップをはがすと、白い石灰分が中和して軟らかくなっているので、たわしなどでこすると、きれいに落とせます」と手順を説明している。

「セスキ炭酸ソーダ溶液や過炭酸塩を使うと、掃除が楽しくなります」と話す漫画家で家事評論家の赤星たみこさん

本の扉を開けてごらん 6

読み慣れない子どもにも

「どれみふぁけろけろ」

泳ぎの苦手なたっくんは、学校でプールのある日は元気がありません。池のほとりで「かえるは、およげていいなあ。ぼくも、かえるになりたいなあ」とつぶやきました。

すると、うしろの草むらで〝からん からん〟と鐘の音が。そこはカエルの学校でした。「あおがえる あおきちくん」「けろっ」。先生が出席をとっています。

いつのまにか、たっくんは〝かえることば〟を話し、「あおがえる たけし」として、皆と一緒に、立派なカエルになるための勉強を始めることになりました。

まずは歌の勉強から。「どれみふぁけろけろー」などと元気に繰り返すうちに、雷が鳴り、雨が降ってきて、カエルたちは大喜びです。

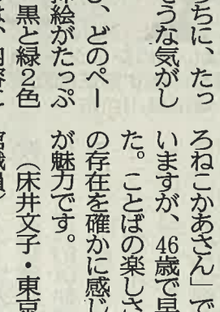
次は泳ぎの時間。水かきのないたっくんの手に、先生がハスの葉っぱをつけてくれました。水かきは大きく開いて水をかくこと、足は力強く水を蹴ること。先生の教えを聞くうちに、たっくんは本当に泳げそうな気がしてきました。

大きな活字が並び、どのページにも切り絵風の挿絵がたっぷりと入っています。黒と緑2色のシンプルな絵からは、内容にぴったりのおおらかなユーモアがにじみます。

数年前のこと、小学1年の娘と一緒に読んでいたら、その横で、幼い弟が「どれみふぁけろけろー」と唱和していました。そんな親しみやすさからか、夏休みの本選びに迷っている、ふだん読み慣れていない子にも喜ばれています。

作者の東君平さんは、絵本「くろねこかあさん」でも知られていますが、46歳で早世されました。ことばの楽しさや、子どもの存在を確かに感じる作品世界が魅力です。

（床井文子・東京子ども図書館職員）



イラスト・吉田真理

くらし

アイデアで社会貢献

全国の高校生が活動報告

社会貢献活動に取り組む全国の高校生が参加、交流するイベント「高校生ボランティア・アワード2019」が横浜市で開かれた。約100校の生徒が、授業で学んだ技術やアイデアを生かした活動を、会場のブースで来場者に発表した。

主催は、歌手さだまさしさんが設立した公益財団法人「風に立つライオン基金」。社会福祉や地域の活動に頑張る高校生を顕彰する目的で毎年開催し、今年で4回目だ。

認知症の高齢者と農作業を通じて触れ合う「認知症カフェ」を報告したのは青森県立五所川原農林高校。リンゴ農家だった高齢者と畑で作業したり、生徒が発案したハンドマッサージをしたりして交流している。3年生の山崎未来さんは「畑に出ると楽しかった記憶を思い出す人も多い。夢中になっている様子を見ると、活動してよかったと思う」と話した。

福島県立白河実業高校の生徒は授業で学んだ溶接技術を生かし、観光地に設置するごみ回収ボックスを製作。3年生の渡辺夏希さんは「地域の人から要望を聞き、降雪や景観にも配慮しています」と解説した。

横浜市で開かれた「高校生ボランティア・アワード2019」で活動を発表する高校生ら